

よなごびと

| 第86回 |

鳥取大学医学部附属病院 病院長

たけなか あつし
武中 篤 さん

この地域の将来のために

新病院を作りたい

「小学3年生の時、母を病気で亡くした。その瞬間、医者になろうと決めた」子どもの頃から揺るぎない決意を胸に医師となり、現在は、とりだいい病院で病院長を務める武中さん。大切にするのは「患者さんを自分の身内だと思っ

て診ること」だと言い、「何でも『自分事』というのが私の一貫したスタンス」とまっすぐ前を見つめます。泌尿器科の医師として、これまでさまざまな場所で勤務してきた武中さん。米子に赴任したのは2010年でした。「米子の生活も16年目。人生で一番長く過ごしている場所になった。大好きな温泉とゴルフに行きやすく、大山の景観も素晴らしい。幸せを感じます」とほほ笑みます。



専門は泌尿器科。低侵襲外科やロボット手術など先進的で高度な医療を提供

新病院のキャッチフレーズは「とりだいい病院は未来の理想病院を作ります」

